先進医療専門家会議における科学的評価結果（7月受付分）

（先進医療として適当とされた技術）

先進医療名	適応症	先進医療費用※（自己負担）	特定療養費※（保険給付）	技術の概要	受付日	総評	評価の詳細
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	子宮腺筋症	18万6千円（1回）	39万5千円（入院16日間）	別紙1	平成17年7月15日	適	別紙2

※届出医療機関における典型的な症例に要した費用

（参考）
（保留等とされた技術）

先進医療名	適応症	先進医療費用※（自己負担）	特定療養費※（保険給付）		受付日	総評	その他（事務的対応等）
盲腸ポート造設術（2医療機関）	難治性便秘症及び難治性便失禁	15万9千円（1回）	26万6千円（入院12日間）		平成17年7月15日	保留	
	神経障害に起因する高度の排便機能障害	17万8千円（1回）	24万9千円（入院11日間）				
凍結保存同種組織を用いた外科治療	心臓血管疾患等	171万9千円（心臓弁、大動脈1回）	386万9千円（入院57日間）			否（再届出）	
		114万9千円（静脈1回）	500万2千円（入院40日間）				
PPH法による直腸粘膜脱及び内痔核手術（2医療機関）	直腸粘膜脱、内痔核、不完全直腸脱	5万5千円（1回）	8万8千円（通院1日間）				書類不備のため再届出
	直腸粘膜脱、内痔核、不完全直腸脱	5万5千円（1回）	16万4千円（入院3日間）				

※届出医療機関における典型的な症例に要した費用

先進医療として適当とされた技術

（先進医療名）

高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術

適応症：子宮腺筋症

（医療機関の要件）

Ⅰ　実施責任医師の要件

診療科：　産婦人科
資格：　産婦人科専門医
当該診療科の経験年数：　10年以上
当該技術の経験年数：　3年以上
当該技術の経験症例数：　助手及び術者としてそれぞれ10例以上、又は術者として20例以上

Ⅱ　医療機関の要件

実施診療科の医師数：　常勤医師3名以上
病床数：　1床以上
診療科：　産婦人科
当直体制：　要
緊急手術の実施体制：　要
院内検査（24時間実施体制）：　要
医療機器の保守管理体制：　要
医療安全管理委員会の設置：　要
医療機関としての当該技術の実施症例数：　5例以上
その他：　麻酔科標榜医が麻酔を行なう体制であることが望ましい。

Ⅲ　その他の要件

頻回の実績報告：　20症例までは、6月毎の報告

先進医療の内容　（概要）

先進医療の名称	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術

適応症

子宮腺筋症

内容

（先進性）

従来、子宮腺筋症の治療法は子宮摘出しか方法がなかったが、腺筋症部分を核出することにより、子宮を温存して治療することが可能となった。

（概要）

子宮腺筋症とは、正常な状態では子宮の内側を覆っている子宮内膜が、子宮筋層内に異所性に発生し、強い月経痛を生ずる疾患である。これまで子宮全摘術によって治療されてきたが、近年の女性の晩婚化によって、子宮を温存する治療法が求められるようになった。

腺筋症組織は、子宮筋層の中に複雑に入り込んでいることから、従来、腺筋症組織のみを正常の子宮筋層と分離して切除することは困難であった。

本技術は、開腹後に、新たに開発されたリング型の高周波切除器を用いることにより腺筋症組織のみを切除（核出）するものである。

（効果）

子宮を温存したまま、子宮腺筋症を治療し、月経痛を著明に軽減することができる。

（費用）

先進医療に係る費用（自己負担）　18万6千円（1回）

特定療養費（保険給付分）　39万5千円（入院16日間）

備考　この用紙は，日本工業規格Ａ列４番とすること。医療機関名は記入しないこと。

別紙１－２

子宮腺筋症核出術

腺筋症組織切除の様子

先進技術としての適格性

先進医療の名称	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術
適応症	[A]. 妥当である。 B．妥当でない。（理由及び修正案：　　）
有効性	A．従来の技術を用いるよりも大幅に有効。 [B]. 従来の技術を用いるよりもやや有効。 C．従来の技術を用いるのと同程度、又は劣る。
安全性	A．問題なし。（ほとんど副作用、合併症なし） [B]. あまり問題なし。（軽い副作用、合併症あり） C．問題あり（重い副作用、合併症が発生することあり）
技術的成熟度	A．当該分野を専門とし経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 [B]. 当該分野を専門とし数多く経験を積んだ医師又は医師の指導下であれば行える。 C．当該分野を専門とし、かなりの経験を積んだ医師を中心とした診療体制をとっていないと行えない。
社会的妥当性（社会的倫理的問題等）	[A]. 倫理的問題等はない。 B．倫理的問題等がある。
現時点での普及性	A．罹患率、有病率から勘案して、かなり普及している。 [B]. 罹患率、有病率から勘案して、ある程度普及している。 C．罹患率、有病率から勘案して、普及していない。
効率性	既に保険導入されている医療技術に比較して、 A．大幅に効率的。 [B]. やや効率的。 C．効率性は同程度又は劣る。
将来の保険収載の必要性	[A]. 将来的に保険収載を行うことが妥当。 B．将来的に保険収載を行うべきでない。
総評	総合判定：　[適]　・　否 コメント：適応症を子宮腺筋症に限定すべきであり、術前検査（MR、エコー等）で子宮筋腫が存在しない事を確認する必要がある。

備考　この用紙は，日本工業規格Ａ列４番とすること。医療機関名は記入しないこと。

別紙２－２

当該技術の医療機関の要件

先進医療名：高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術 適応症：子宮腺筋症	
Ⅰ．実施責任医師の要件	
診療科	産婦人科
資格	要（産婦人科専門医）
当該診療科の経験年数	１０年以上
当該技術の経験年数	３年以上
当該技術の経験症例数	助手及び術者としてそれぞれ１０例以上、又は術者として２０例以上
その他	
Ⅱ．医療機関の要件	
実施診療科の医師数　注２）	常勤医師３名以上
他診療科の医師数　注２）	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置（薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	１床以上
診療科	要（産婦人科）
当直体制	要
緊急手術の実施体制	要
他の医療機関との連携体制（患者容態急変時等）	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	５例以上
その他	麻酔科標榜医が麻酔を行なう体制であることが望ましい。
Ⅲ．その他の要件	
頻回の実績報告	要（２０症例までは、６月毎の報告）
その他	

注１）当該医療技術を適切に実施するに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。
注２）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数○年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。